

廃校活用で地域連携の拠点 中川原ふれあいセンター活動を応援



左から樋口安明連合町内会会長・藤井一男元連合長会会長・社会貢献支援財団の安倍昭江理事長・堂内毅ふれあいセンター運営委員長・同センター濱田主任

去る11月28日、帝国ホテル東京において公益財団法人社会貢献支援財団の第47回社会貢献者表彰式典が行われ、51件の団体・個人と共に中川原連合町内会が表彰を受けました。

この表彰は、困難な状況の中で社会と人間の安寧・幸福のために尽くし、先駆性・独自性・模範性などを備えた活動など、国内外の社会貢献の功績をたたえるものです。

中川原連合町内会は、淡路ふくろうの郷との交流の積み重ね、協働による旧中川原中学校を活用しての住民交流と助け合い事業などの評価と、今後の継続拡充への期待を込めて表彰されたものです。表彰式には、推薦者の及川リユ子さん（東京足立区のろう者）や大矢理事長も出席しました。



洲本高校柔道場にて

第二学年を対象として毎年実施されてきた人権講演会。今年当で11月9日に実施され大勢の生徒さんからの感想が寄せられました。編集の都合で二人を紹介します

多くを学び新しい社会を築きたい
私たちはこんなにも満たされた生活をしていながら、それ以上を求めています。それはきつと、貧困を知らないからなのだ。今回の公演を聴いて思いました。家に帰れば家族がいて、好きなものを食べ、暖かい布団で眠ることがどれほど幸せなことかを実感することが出来ました。黒崎さんのように、学校に通いたかったけれども叶わなかった方々の分まで私たちは多くを学び、新しい社会を築いていかなければならないと思います。言葉を交わさずとも、心を通わせる方法がいくつらでもあることを再確認できました。

《3面につづく》

洲本高校で今年も人権講演会

ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551
ホームページ

<http://www.normanet.ne.jp/hyoufuku/>

戦後70年が過ぎ今年5月オバマ大統領が広島を訪れました。年末には、首相が真珠湾を訪問予定で「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」

中川原高齢者・障がい者 地域ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

「淡路島まちかどマルシェ」は「洲本市中心市街地における暮らしやすいまちづくりを考え協議会」の委託を受けて、NPO法人ウィズアスが実施しています。

コンセプト

- ・人つながるマルシェ
- ・まちとつながるマルシェ
- ・淡路島とつながるマルシェ
- ・人のぬくもりを感じるマルシェ
- ・淡路島を感じるマルシェ

11月26日(土)に洲本市本町にあるコモード56商店街内に「淡路島まちかどマルシェ」がオープンしました。この企画を担当されている方から声を掛けて頂き、おのこのろの家、おのこのろ屋の利用者さんがそれぞれ作った手作り品と焼菓子を販売させて頂く事になりました。



「淡路島まちかどマルシェ」に出品。第2・第4土曜日に来店ください

前日にお店に職員が赴き、作品をレイアウトしました。初日という事もあり売れ行きが心配でしたが、有機栽培の農産物の販売もあり大勢のお客様が来られました。今後も毎月第2、第4土曜日に販売する予定です。おのこのろ屋の集客に繋げて行きたいと思



(山田)

神戸ろうあハウスが、彼にとっての「居場所」です。とてもうれしい一言でした。

(共同作業所神戸ろうあハウス 野村)



作業所はなかまの居心地の良い場所です

「こころが居場所です！」

1年ほど通所が途絶えていたなかまが、再び通い始めました。彼は、中途失聴者で、今は軽度難聴者です。神戸ろうあハウスに通い始めるまでは、ずっと家に居て、ひきこもり状態でした。ろうあハウスに通うなかまは、一般就労が困難で、仕事や生活面でなんらかの支援を必要としています。でも、彼は、日常生活で困ることもないし、金銭管理もきちんとしています。作業所での仕事もできます。彼に必要なことは…彼は言いました。「友達を作るにはここしかない。手話が使えとか使えないとかではなく、同じ障害を持ち、みんながいつでもなかまとして受け入れてくれる場所だから、「安心」できる場所。以前のように、「ひきこもり」はしたくない」

お喋りしながらのお茶の時間 & 「知っ得情報」という情報提供

神戸ろうあハウステイサービスセンター

神戸ろうあハウステイサービスセンターでは、兵庫、灘、須磨とも2時30分になるとお喋りしながらのお茶の時間です。あわせてスタッフも最近、起こった事や身近な事などを解説するニュースや、ちょっとした「情報」を提供する時間です。利用者さん達には好評で、「テレビで見た。新聞の見出しにあったね」「あれはどういうこと」とか「知らなかった」「面白い」と興味津々です。時には、利用者さん達から「あの話、あの事件のことが知りたい」との要望で、担当のスタッフは、持参の新聞で頑張ります。

また、兵庫デイにはニュースの時間以外に、1ヶ月に1度「知っ得情報」という情報提供の時間があります。介護予防で「口腔」や「栄養」の事、それに絡んで「病気の話など聞く機会があります。それ以外の生活や地域、社会でのちょっとした情報をスタッフがあらかじめ調べてお話しします。昔からの言葉や習慣、歴史、流行、また健聴者なら、育って行く過程で、自然と知り得た事など色々です。例えば「のし袋や水引の形の違い」「地図記号の見方」

「お米の話」「二十四節気って何!?!」「春の七草、秋の七草」「お彼岸について」等々。多岐にわたってお話しをします。皆さん本当に楽しみに聞いてくれます。利用者さん達の興味や関心を引き出すこと、これも「介護予防」の一環だと思っています。また時には、スタッフの表現よりこの表現の方が分かりやすい、「もつと表情を！」などの指摘もしてくれます。支援しているスタッフが支援される一場面です。スタッフにとっても「有難い!!」時間なのです。

(眞木崇江)



全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会に参加して

11月26・27日 京都・仏教大学にて

第4分科会「高齢聴覚障害者のくらしを施設で支える」

「土居文子様 の長寿祝いと自分史の取り組み」私は100歳です」というテーマで、出版しているまなびあ文庫の「土居文子自伝」を公開していること、土居様の人生とろうあ活動をされていることと、施設で転倒し骨折したなどを報告しました。自分史についてはきつかけなどの質問をされていましたが、次のレポーターの橋詰さんが自分史のレポートを発表される為、省きました。

特に土居様は去年の5月に朝の会終了後、玄関で転倒し右大転子の骨折をされたが、退院の後、施設での車いすと歩行器使用で見守りながら対応していたこと、今は自立出来、普通に過ごされて

いることを報告しました。

参加者から「前にふくろうの郷を見学した時は、ユニットから喫茶ルームまでの距離があり、入居者の方々が歩いたり、車いすで自操されているのを見て、頑張つて暮らしておられる様子が素晴らしいと思つた。」とか、「私の施設は95歳の入居者がいて普通に食事したり、まだ元気にしているのに土居様は凄い。」と話されていました。これからも土居様だけでなく、他の入居者の方々にも人生と過去の生活を知り、自分らしい生活環境に合わせて支援していきたいと思えます。

生活援助員 山田 繁和



全聴福研では、Y様(本人のプライバシーにより仮名)の報告をしました。Y様の介護では、入居者に対して暴言、暴力を振るうことに対する対応と認知症を

発症しており、本人の記憶力が定かではないことによる様々な出来事に対する対応の難しさ、Y様の言動による人間関係の孤立が進んでいることを報告させていただきました。

質問や意見、アドバイスは様々ありましたが、残念ながら解決になりそうな言葉はいただくことが出来ませんでした。しかし、対応の仕方に対する批判は無かったため、以後も現在の対応方法を進めていくことにしました。

感じたことは、頂けた意見やアドバイスは全て障害者

の立場から考えているだけでなく、人間関係の背景についても質問されており、そこから出来る人間関係の構築による解決方法が導き出されるのではないかとアドバイスを受け、これからの参考にしていきたいと思えます。

生活援助員 石黒 裕規

恒例の炊き出し訓練

11月11日炊き出し訓練を実施いたしました。今回は、喫茶前の屋外でカレーをつくりました。ごはんについては、非常用のものを使用しました。お湯を沸かして注ぐだけ。

備えあれば憂いなし



《1面つづき》
私も今回話してくださいました3人のように、人の目をまっすぐ見つめて話せるようになりたいです。

三組 酒部真緒

存在自体の否定を繰り返さない語り継ぎを

講演をしてくださった方たちが自分と同じくらいの年代に経験したことがとても胸を打たれる内容だった。これまでも何度か障がいを持つ方の話を聞く機会があったが、今回初めて知ったのは、障がいがあるが故、子供を産めなくなる手術をされたり、存在自体を否定されることが戦争の時代に実際にあったことだ。こういった経験をほとんど語り継ぐことで、これ以上繰り返さない意思を強めるきっかけになるのではと感じた。

五組 伊名岡智也

**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館3階

**毎年恒例の県合同防
災訓練実施される**

11月13日(日)兵庫県が毎年実施している合同防災訓練が今年度は淡路地区をメイン会場に実施されました。例年より規模を拡大し南海トラフを想定し、島内各市で一斉に行われました。



▲竹の棒と毛布で即席の担架で運ぶ訓練

**訓練や体験することで
分かる配慮や心がけ**

担架を使って人が運ぶ訓練をする際には、運ぶ役、運ばれる役それぞれに訓練しました。運ばれ役を体験したろうの方は「合図が聞こえないので突然担架が持ち上がり怖かった」などと話され、実際体験することでどのような配慮が必要か知ることができました。

最後にグループごとに分かれて意見交換を行い、「車いす移動するとき、段差があり大変だった・バンドナ作成前に意見交換がほしか

**一般市民と障害者
分かれた訓練に疑問の声**

「た・〈要約筆記出来ませう〉を追加して欲しい・はり紙とホワイトボードが欲しい・本当の地震が起こった時、行動できるか心配」などの意見や感想が出されました。

**訓練は一つの会場で障害者
と一般の方と分かれて同時進行で行っています。なぜ、一緒に訓練しないのか」**

「なぜ、一緒に訓練しないのか」など疑問の声もあがっています。災害はいつどんな時に起こるか分かりません。障害の有無関係なく地域の方々と顔を合せ日頃からどのような対応すべきかなどの課題については一緒に考え検討の場を作っていく必要があります。

これまで通訳はボランティアの立場でしかありませんでしたが、今年には各市より派遣依頼があり、聴覚障害者の参加と情報保障の面では

一歩前進しました。センターとして今後も行政や関係機関と連携し、緊急時に顔の見える支援体制を作る必要を感じました。

学ぼう「福祉制度」と「盲ろう者」について

手話奉仕員養成講座集中講座

手話奉仕員養成の集中講座では17名が受講され2つの講義を行いました。

1つ目は「福祉制度について」をテーマにセンター職員が吉川稔が担当しました。聴覚障害者が生活する際に使用している音を光や振動に替える日常生活用具について聞こえない方の家族の様子を教材のDVDで実際に使用している様子を見ながら福祉の制度で助成が受けられることなどを学習しました。また、数年前から普及しているテレビ電話など、時代の移り変わりによる福祉制度も変わってきていることを説明しました。

2つ目は「盲ろう者とは」というテーマでNPO法人兵庫盲ろう者友の会理事の奥井大氏にお話をいただきました。兵庫県内でも盲ろう者の実態をまだ把握できていない状況や一人ひとりに合わせたコミュニケーション方法などお話しいただきました。受講生の中には盲ろう者を実際会ったことがない

方もおられ、様々なコミュニケーション方法があることに驚かれました。また、受講生が講師に触手話で自己紹介し、緊張しながらも伝えることができました。奥井氏は、「盲ろう者が社会参加するには通訳介助員が必要。しかし、その人数は不足しています。受講生の皆様も、通訳介助員の資格を取得し活動していただきたい」と話されました。



▲盲ろう者について話す奥井氏

受講生の感想

・障害がある人もない人も住みやすい社会で生活できるように私も勉強し、協力できればいいと思う。
・盲ろう者のコミュニケーション方法は点字だけと思っていた。触手話・指点字など様々な方法があると知った。

**全国統一試験に向けて
フラッシュアップ**

今年度も全国手話通訳者統一試験対策講座(全12回)を開催し、11名が受講、11月26日に最終日を迎えました。

平松弘子氏、池上睦氏のお二人の講師に丁寧に指導いただき、受講者は日本語をどのように手話で表すか頭をひねりながら学習を重ねました。後半の試験直前対策では実技の「手話の要約」が、今年度から「話の要点」が追加となり、変更となった方法で具体的な指導、アドバイスをいただきました。

「初めて受講した。手の動きからだけではなく表情や身体全体で表現されているもの全てを通訳することによりろう者に伝わることを学んだ」12月3日の試験合格目指して頑張ろうと士気が高まる講座でした」と受講された方から感想をいただきました。



▲一人ひとり丁寧な指導を受けました。

中川原高齢者・障がい者 地域ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

「淡路島まちかどマルシェ」は「洲本市中心市街地における暮らしやすいまちづくりを考え協議会」の委託を受けて、NPO法人ウィズアスが実施しています。

コンセプト

- ・人つながるマルシェ
- ・まちとつながるマルシェ
- ・淡路島とつながるマルシェ
- ・人のぬくもりを感じるマルシェ
- ・淡路島を感じるマルシェ

11月26日(土)に洲本市本町にあるコモード56商店街内に「淡路島まちかどマルシェ」がオープンしました。この企画を担当されている方から声を掛けて頂き、おのこの家、おのこの屋の利用者さんがそれぞれ作った手作り品と焼菓子を販売させて頂く事になりました。



「淡路島まちかどマルシェ」に出品。第2・第4土曜日に来店ください

前日にお店に職員が赴き、作品をレイアウトしました。初日という事もあり売れ行きが心配でしたが、有機栽培の農産物の販売もあり大勢のお客様が来られました。今後も毎月第2、第4土曜日に販売する予定です。おのこの屋の集客に繋げて行きたいと思

(山田)



神戸ろうあハウスが、彼にとっての「居場所」です。とてもうれしい一言でした。

(共同作業所神戸ろうあハウス 野村)



作業所はなかまの居心地の良い場所です

「こころが居場所です！」

1年ほど通所が途絶えていたなかまが、再び通い始めました。彼は、中途失聴者で、今は軽度難聴者です。神戸ろうあハウスに通い始めるまでは、ずっと家に居て、ひきこもり状態でした。ろうあハウスに通うなかまは、一般就労が困難で、仕事や生活面でなんらかの支援を必要としています。でも、彼は、日常生活で困ることもないし、金銭管理もきちんとしています。作業所での仕事もできます。彼に必要なことは…彼は言いました。「友達を作るにはここしかない。手話が使えとか使えないとかではなく、同じ障害を持ち、みんながいつでもなかまとして受け入れてくれる場所だから、「安心」できる場所。以前のように、「ひきこもり」はしたくない」

お喋りしながらのお茶の時間 & 「知っ得情報」という情報提供

神戸ろうあハウステイサービスセンター

神戸ろうあハウステイサービスセンターでは、兵庫、灘、須磨とも2時30分になるとお喋りしながらのお茶の時間です。あわせてスタッフが最近、起こった事や身近な事などを解説するニュースや、ちょっとした「情報」を提供する時間です。利用者さん達には好評で、「テレビで見た。新聞の見出しにあったね」「あれはどういうこと」とか「知らなかった」「面白い」と興味津々です。時には、利用者さん達から「あの話、あの事件のことが知りたい」との要望で、担当のスタッフは、持参の新聞で頑張ります。

また、兵庫デイにはニュースの時間以外に、1ヶ月に1度「知っ得情報」という情報提供の時間があります。介護予防で「口腔」や「栄養」の事、それに絡んで「病気の事」など聞く機会があります。それ以外の生活や地域、社会でのちょっとした情報をスタッフがあらかじめ調べてお話しします。昔からの言葉や習慣、歴史、流行、また健聴者なら、育って行く過程で、自然と知り得た事など色々な形の違い。「地図記号の見方」

「お米の話」「二十四節気って何!?!」「春の七草、秋の七草」「お彼岸について」等々。多岐にわたってお話しをします。皆さん本当に楽しみに聞いてくれます。利用者さん達の興味や関心を引き出すこと、これも「介護予防」の一環だと思っています。また時には、スタッフの表現よりこの表現の方が分かりやすい、「もつと表情を！」などの指摘もしてくれます。支援しているスタッフが支援される一場面です。スタッフにとっても「有難い!!」時間なのです。

(眞木崇江)



続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き

NO29

北 岡 肇

は 歯痛の神様

中川原の歯神さん

淡路ふくろうの郷・前の市道を北の方に向って県道へ、そこから市道・元国Ⅱ参勤交替の国道へ入って500メートルほど行った中川原町中川原広地¹⁴¹²、の道路沿いの、こんもりした森の中に祠が祀られています。二尺の道路巾幅によって少し移されたということ。名所旧蹟、神社仏閣にはそれぞれ創記や縁起について書き物が残されていますが、田村正さん(個人)が書いた「ふるさとの神々と仏たちに」に「歯痛の神さん」石で造られた祠の側面に「寛政12年(1800年)申、12月吉日と刻んだ記銘があります。中川原町内で、ただ一か所だけしかありません。

古くからのお口伝へによりますと、歯が痛くなってきたとき、お参りすると思議にも靈験があるそうです。

時代の移り変わり、医学の進歩によって病気はお医者さん、医院や病院となり、病と信神・信仰は廃れ、今では「歯神さん」と尋ねて知る人ぞ少なく、むかしの面影として道端ひっそりとかげをどめています。また、歯神さんから100メートルほど離れた田んぼの畦道のこんぼりした処に「乳神さん」の祠があって、乳の出る神さんとして靈験があって、その口には産後の女の方がお参りしたそうです。

歯神さん乳神さんとも寛政12年(1800年)12月吉日と石碑の側面に記銘されています、二神さんとも同年に祀られています。その時代が思い出されます。お乳神さんについては、滝谷不動前、本村のお乳神さんなど中川原村史に記述があります。

※中川原村史を参照

いつもご支援ありがとうございます



ふくろう募金が、1,110,570円となり前月より8,871円の増額です。(12月1日現在)

ひとりひとりを大切に ともに生きる

ひょうご聴覚障害者福祉事業協会では 職員を募集しています

~知り合いで希望される方をご紹介ください~

(生活支援員・看護師・調理員・
ケアマネージャー)

淡路ふくろうの郷

(詳細はお問い合わせください)

淡路ふくろうの郷(橋詰)まで

0799-25-8550

採用試験 2017年2月25日

年末年始の行事・予定



12/17(土) しめ縄づくり・もちつき大会
(中川原地域交流会・中川原老人会 協力)

- 12/9 近畿合同学習会
- 12/18 理事会(神戸)
- 12/21 ふくろうクリスマス会



1/1(日・祝) 新年互例会
おせちづくり
1/2・3 初詣(予定)

ボランティアさん募集